



あとがき

スウェーデン王立科学アカデミーは7日、2014年のノーベル物理学賞を、日本人の3氏に授与すると発表した。その喜ばしい話の割には、マスコミの反応は直ぐに冷めて、以前ほどの賑やかさを見せず、何か拍子抜けした印象を受けたのは私だけであろうか？

研究者であれば、何がしら自分が文明に寄与している、という自負を持って研究を進めていると思う。核データも然り。1つのデータが人々の生活に寄与する、基礎データに力あり。そういう自負、気概である。純粋な気概によるたゆまざる努力の積み重ねによる研究が広く認められて、その気概の副産物として、自然と賞に結びつくのではないか。天才とは、自分が、自分がと前に出ようとせず、常に自然であり、純粋なる気概であろうか。

福田雅之助の「庭球訓」を、少々もじってみよう、ここで言わんとする純粋なる気概が分かってもらえるかもしれない。

この実験は 絶対無二の実験なり
されば心身を挙げて測定すべし
この実験研究に技術を磨き
洞察を鍛え
研究力を養うべきなり
この実験に今の自己を発揮すべし
これを科学する心という

中村 詔司 (2014年10月記)

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

喜多尾憲助 (元放医研)、井頭政之 (東工大)、石川 眞 (原子力機構)、
岩本 修 (原子力機構)、中川庸雄 (元原子力機構)、渡辺幸信 (九大)、
山野直樹 (福井大)、大塚直彦 (IAEA)、中村詔司 (原子力機構)、
小浦寛之 (委員長、原子力機構) [編集]石橋貞子